

京劇

のことなど

京劇

若者の「～離れ」は以前からよく言われますが、伝統芸能もその一つと言っていいでしょう。それを防ぐべく、日本ではアニメの原作を歌舞伎仕立てにしたり、バレエの演目を狂言師や日本舞踊家が演じたり、さまざまな試みがなされ、それがまた進化へとつながるんでしょうね。親子のための「歌舞伎教室」とか、実際にメイクや動作を体験できるワークショップも開かれています。

中国の伝統芸能といえば、代表格は京劇。歌舞伎ともよく比較して語られます。日本人ファンもいて、こちらで解説付きの鑑賞会やワークショップが開かれたり、中国への留学プログラムに京劇体験が入っていたりします。しばらく前になりますが、そんな「京劇鑑賞会」を見てきました。上演中、なんと小さい子がほんとうに面白そうに声を立てて笑ってたんですよ。もちろん中国語は全く分からないと思います。演目は、京劇の定番《三岔口（サンチャコウ）》。『楊家将演義』の1シーンで、実は仲間同士の二人がそうとは知らずに真っ暗闇で戦うのですが、偶然に間一髪で相手の攻撃をよけたり、そと様子をうかがっていた二人がぶつかってしまったりで、そのアクロバティックでコミカルな動きが見事なのです。それに、分かりやすい！ 長く受け継がれてきた文化、長い鍛錬に耐え身についた技は、言葉や年齢を越えて感動を生むのだとつくづく感じました。ふと、思い出したのは、前に見たジャッキー・チェンのカンフー映画。そういえば、彼は幼い頃、京劇学校で修練を積んだとか。ここにルーツがあったんですね。

京劇は、門外漢が語るにはあまりに深い世界を持っていますが、それでもこの伝統がいろいろなところに派生して脈々と流れているのは感じられます。ずいぶん前になりますが、1993年の香港・中国合作映画《霸王別姫（さらば、わが愛／霸王別姫）》は、カンヌ映画祭でパルム・ドール賞を受賞しました。時代に翻弄される京劇役者の話で、作品の中には「四面楚歌」の故事で知られる中国の英雄・項羽の有名な演目が出てきます。その美しさに何度この映画を見たことか……。

さて、『西游记（西遊記）』もたくさんのエピソードが京劇の演目になっています。2016年は申年だったこともあり、ずいぶん関連の映画が制作されましたが、最初にドラマになったのは、1986年に中央電視台が制作した『西遊記』ではないでしょうか。2、3年後には日本でも深夜に放送され、当時中国語を勉強中の人の中では密かに歓迎されていました。主演は、曾祖父から代々京劇で孫悟空役を演じてきた「悟空俳優」、六小齡童（リウシャオリントン）。そのキレのある動作、コミカルながら洗練された演技、そして今や懐



かしい特撮も楽しく見られました。中国での再放送が3000回を超え、ギネス申請をしているという話です。

そうそう、このドラマ、中国語を知らない友人も見ている、「『ピーシア、ピーシア』ってよく出てくるけど、何？」と聞かれたことがあります。これは、「陛下」ですね。ドラマの登場人物が皇帝を呼んでたんです。今回のお話には、なんとこの「陛下」が出てくるんですよ！ でも結末はこんなことに……。ただ、このお話、昔ならまだしも今はこんなことはちょっと考えられないですね。よほどの意地悪か、ウケを狙った感があります。ヒドイわ～。

走在胡同₁里听见楼上有人喊我：

“陛下₂……陛下！”

我抬头应₃了一声：“干吗！”

然后就被泼₄了一脸水。

楼上泼水的女的说：

“早喊你避一下嘛₅，真是的₆！”

1 胡同 húttòng：路地。横丁

2 陛下 bixià：皇帝・国王への敬称。

“避一下 biyíxià（ちょっと避けて）”と発音が似ている。

3 应 yīng：応える

4 泼 pō：液体などをまく。ぶっかける

5 嘛 ma：念押し、当然、注意を促す場合などに用いる

6 真是的 zhēnshìde：本当にもう。まったく

（不満や不快などの気持ちを表す）

*

路地を歩いていたら、上から「陛下、陛下！」と叫ぶ声がした。

顔をあげて「何なんだよ？」と応えると、

上から水が降ってきて、顔がびしょびしょになった。

二階から水をまいた女が、

「だから早くどけて言ったじゃないの、まったく！」